



そうだ、今日は映画館に行こう！

【うえだ子どもシネマクラブ】

学校に行きづらい、または行くのをやめてしまった子どもたちのための上映会【うえだ子どもシネマクラブ】。月2回の上映会のほか、水曜日と金曜日には映画館で過ごしていただくことができます。学校に行きづらい日は映画館へぜひお越しください！

- 4月11日（月）
10:00 ～ 『GUNDA/ グンダ』
13:00 ～ 『ロスバンド』
- 4月25日（月）
10:00 ～
『世界でいちばんのイチゴミルクのつくり方（吹）』
13:00 ～ 『シング・ストリート未来へのうた』

こちらの上映会は登録制になっています。詳細は劇場窓口または、NPO アイダオ（080-4813-1110）までお問い合わせください。



musubisya popup store

贈り物と日用品を扱う雑貨店『ムスビ舎』。長く愛用できる日用品、人に地球にやさしいをテーマに商品をセレクトしています。モノだけではなく、癒しの時を贈る嗅覚反応分析やハンドケアなどを行う香り部門もはじめました。どうぞお気軽にお問い合わせください。

musubi.sya@gmail.com

大切な方への贈り物を選ぶときそれはきっとあたたかでやさしい時間。ありがとう、おめでとう暮らしのなかの伝えたい想いや言葉贈るを日常にキュッと結んで時々ほぐすてきなムスビがありますように

期間：4/2（土）～ 6/3（金）

ムスビ舎 LINE▶



「週末こども映画館」に来てくれた子どもたちへ映劇手帖をプレゼント！

中学生までの年代の子どもたちを対象とした上映企画「週末こども映画館」。この年代のうちに鑑賞して欲しい世界の名作映画を新旧問わず選定し、週末限定上映していく映劇オリジナルのプログラム。この4月から同企画にお越しのお子様全員に映劇手帖をプレゼントします。当館名物の「映劇はんこ」とともに、家族の思い出づくりにお役立てください。

そして4月はなんと対象作品が4作品（詳しくは本紙中面をご覧ください）！幼児から中学生まで幅広い年代のお子様に楽しんで頂ける作品がそろっています。週末のひと時をぜひお子様と一緒に劇場でお過ごしください。笑い声や泣き声といった子どもたちの感情表現もどんとこいです！

「週末こども映画館」

上映日程：週末の主に午前中

鑑賞料金：対象作品はお子様同伴の大人1名につき¥1,200（お子様は¥500）

*写真は定番のブルーとグリーン。ここにこの春、新色のパープルが仲間に加わりました。劇場窓口でご希望のカラーをお申し付けください。

上田映劇 × NABO「映劇書店」はじめます

上田映劇から歩いて5分、新刊・古本を扱うブックカフェ NABO（ネイボ）とコラボして、上田映劇ロビーにミニ書店が開店します。本のタイトル数はギュッとしばって、上田映劇・重澤珈琲・NABOのスタッフが「映劇書店」スタッフとしてセレクトした書籍をそれぞれコメント付きで紹介します。4月1日からのスタートで、季節ごとに本を入れ替えていく予定。読むことから世界がひらけていくような本をご用意してお待ちしております！

●映劇書店

場所：上田映劇ロビー
期間：4月1日（金）～無期限
※上映に合わせた本のセレクトのほか、3ヶ月にいちど本の入れ替えあり

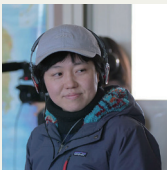
●NABO

上田市中央 2-14-31
営業日：金土日 12:00～18:00
古本・新刊の書籍販売、店内でお茶をのむことができます。本の買取もしています。
※写真は NABO の店内です。

EIGEKI COLUMN

第53回

思い出の街のはなし



「あばら家のはなし」と言うコラムを書いてから約3年が経ったが、また引っ越すことになった。今回は、家が我慢ならなくなって引っ越すのではない。仕事の都合だ。引っ越し先は人生初の西のほう。

初めての土地へ行くのはわくわくするが、ずっと東京・埼玉・神奈川あたりをウロウロしてきた身としては、ついに関東を離れるのが少々寂しくもある。上京してまず初めに姉と2年間住んだ西荻窪のアパートは、湿気が凄まじい部屋で、冬でもお肌は保湿されたが、キッチン用品はことごとくカビに覆われ、パソコンは天に召された。またしょっちゅう家の外で猫が喧嘩をし、ウギャーと赤ん坊のような不気味な声が響いていた。しかしそんなこと全く気にならないほど初めての東京生活は楽しく、「ちょっと軽く、行くか」と言う感じで姉と深夜にカラオケに行ったり、吉祥寺のバウスシアターで真夜中の上映を見たりした。初めて自分で銀行口座を開いたのも西荻窪だし、初めて朝帰りののも西荻窪だった。

アパートから歩いて1分くらいのところにある「中華料理 21」という小さな中華料理屋さんで一時期アルバイトしていた。先日、引っ越し前の挨拶に訪れると、店長の欧さんは相変わらず優しく「慧子ちゃん良いところに来たね、今日は葱餅作ったよ」と歓迎してくれた。葱餅と瓶ビールと担々麺を頂きながら、ここで働いていたのも14年前ですね、と話して自分でびっくりした。

また来てね、うん、また来ます、と言い合って欧さんと別れ、西荻窪駅へ向かった。上京した日、西荻窪駅に降り立ってホームから階段を下ると、改札の向こうで姉が待っていてくれた光景を、昨日のこのように思い出せる。

tsuruoka keiko

鶴岡 慧子 映画監督

長野県上田市出身。当劇場理事。初長編作品『くじらのまち』が、PFF アワード 2012 においてグランプリ & ジェムストーン賞を W 受賞、その後世界各国の映画祭にて上映される。2015 年『過ぐる日のやまねこ』で劇場デビュー。最新作は西加奈子の同名小説が原作の『まく子』。信濃毎日新聞「シネマ魅どころ」に映画評を隔週連載中。

第35回

ちょっとひと息



先日、上田市サントミュージゼにてコンサート「Home coming」が無事開催致しました。念願の故郷でのコンサート。1部は、上田市在住の作家、滝沢きわこさんの民話「太郎山のつづじが赤いわけ」、宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の2作を朗読。2部は、ミュージカル、宝塚、シャンソンなどを歌わせて頂きました。演出、美術は、劇団鎌ヶ谷アルトギルドの石井幸一さん、ゲストは、ミュージカル俳優の高原紳輔さん、青柳茉莉恵さんのピアノでお届け致しました。会場は、沢山の方々に足を運び頂き満員御礼。スタッフ、出演者一同気持ちは一つにして、大切な舞台の幕を開けることが出来ました。

今回は、遠方からも上田市の旅行を兼ねて観にいらしてくださいました方々も多く、上田の魅力を堪能しましたというお声を多数頂き本当に嬉しかったです。また、今回は文化庁子供文化芸術活動支援事業という事で、小学校から高校までの子供達 60 名あまりを無料招待させて頂きました。公演の後には、主催の「犀の角」さんによる、バックステージツアーを子供達が体験し、初めて見る舞台裏に大興奮していました。子供達は、どんなふう感じたのでしょうか。このコンサートで少しでも心が動いたら嬉しいです。

そして、このコンサートでの大切な準備も主催の「犀の角」の皆様、上田市の企業様、商店街の皆様、地元の友人らが一生懸命に協力して頂きました。貴重な時間を頂き、共に歩んで頂きました事に感謝の気持ちでいっぱいです。ほんの少しですが故郷に恩返しが出来たかな、と思っています。まだまだ動き続けます。むしろこれからかもしれません。まだまだ上田でやりたい事があります。

歩みを止めずに！

tsukikage hitomi

月影 瞳 元宝塚歌劇団・娘役トップスター

長野県上田市出身。上田市観光大使。当劇場理事。1990 年「ベルサイユのばら」で初舞台。入団 2 年目で新人公演、初ヒロインを演じる。1997 年「誠の群像」で星組トップ娘役となる。その後雪組に組替えし引き続きトップ娘役としてミュージカルやショーなどで活躍する。2002 年に「愛燃える / Rose Garden」で退団。退団後は舞台、コンサートや映画など、活躍の場を広げている。

vol.50

ピーよりディー 気持ちは $P \leq D$



監督志望の僕がプロデューサーになって、俳優部からの提案で作ったのが『THE 3 名様』だった。映画『ロッカーズ』の打ち上げで佐藤隆太、岡田義徳、塚本高史の三人が突然、スピリッツの誌面を見せながら僕にこう言った「この 3 名様、僕たちでやれないですか？」と。それから二年経った夏の日、佐藤隆太と月9のドラマで再会した。「まだやりたい」「もちろんです！」そんな会話をした直後、僕は原作の出版社にすぐにアポを取った。当時、ドラマ「木更津キャッツアイ」で人気絶頂の三人が、ゆるい感じの漫画の主人公をやると聞いた担当者は耳を疑っていた。それからドラマ「独身 3!」で出会った脚本家・福田雄一さんに監督をしないか？と持ちかけ、撮影に入ったのは約一年後だった。当時、DVD カルチャー全盛の時期で、テレビでも見れない、映画でもない、DVD ストレートと呼ばれる作品にすることで、いきなり大ヒット作品になった。発売日イベントをやった渋谷の HMV やタワーレコードでは売り切れが続出し、TSUTAYA ではレンタル版がいつ行っても借りられない。ある種のサブカル社会現象となった。深夜のファミレスでただ喋るだけのドラマが何故受けるのか？当時の僕は理解出来ないまま作り続けていた。全 13 タイトルで累計 33 万本以上を売り上げ、独立したばかりの自分にとっては本当に有難い作品となった。しかし、主演の三人と監督の福田雄一さんはこの作品で大人気になり、徐々にスケジュールが合わなくなっていった。2010 年 3 月発売のマキシシングる DVD を最後に新作は作れなくなった。その後、何度か再開を試みたがなかなかうまく行かなかった。そんな『THE 3 名様』が 12 年ぶりに復活する。しかも、キャストはあのままで。20 代だった三人はアラフォーになり、一体何をしているのか？原作の石原まこちん先生に問い合わせたら「変わっていないです」と言われ、一気に雲が晴れたように新作プロジェクトが動き出した。キャストは 12 年前と変わらず、時代は令和に変わったファミレスで再始動した『THE 3 名様』がこの 4 月 8 日（金）に映画として劇場公開されることになった。しかも今回は僕が監督させて貰っている。胸が高鳴るとはこのことだ！嬉しい！最高に嬉しい！まさか『ミッドナイトスワン』の次の映画が『THE 3 名様』になるなんて！（つづく）

moriya takeshi

森谷 雄 プロデューサー / 映画監督

愛知県生まれ。株式会社アットムービー代表。当劇場理事。「天体観測」(フジテレビ)、「ザ・クイズショウ」(日本テレビ)、「深夜食堂」(毎日放送)などのドラマをプロデュース。映画作品は『しあわせのパン』(三島有紀子監督)、『曇天に笑う』(本広克行監督)ほか多数。監督作品に『サムライフ』がある。最新作は『ミッドナイトスワン』(内田英治監督)。